

ホーム名：グループホームアキラ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1階・2階のリビングに「誰もが生き生きと生きていける地域での共生の市民生活」という理念を掲示している。毎日のように散歩をし地域とのつながりを築きながら、個性が大切にされる暮らしを実現して行きたいと考えている。	設立当初の入居者であった、元校長先生の自筆による「地域との共生」を目指した、地域密着型事業所に相応しい理念をリビングに掲示しており、管理者と職員は、理念を共有して日々のケアで実践に努めている。	事業所は豊かな自然の残る住宅地の中に位置し、軒下には収穫した玉葱と色とりどりの花、何時でも誰でも座って話せるベンチが置かれて、1軒の民家の様な佇まいである。今後も毎日の散歩や、農園での地域交流を大切に継続して頂きたい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	定期的な溝掃除、防災訓練、しめ縄作り、餅つき、など年間通して地域の行事には入居者とともに参加させて頂いています。回覧板のやり取りの際などに近隣の方と挨拶を交わす機会があります。散歩の時は、地域の方から声をかけていただいたり、こちらから挨拶をする事で貸農園でも地域の方々との交流があります。	自治会、老人会に加入しており、地域の行事には入居者3～6人と共に参加している。貸農園には車椅子での見学者を含めて入居者全員が草引きや、野菜の収穫等に出席し、自然との触れ合いを楽しんでいる。また農園では区長や、民生委員等の地域住民も野菜や花等を栽培しており、農園での作業時は地域交流の良い機会ともなっている。	グループホーム設立10周年を記念して、地域包括主催の「フラダンスとキッズ向け認知症サポーター講習会」を8月20日に開催する予定である。地域の子供たちが、認知症高齢者に対する理解を深める良い機会であるので、成功を願うと共に今後も自治会等との共催で認知症の啓発運動に取り組んで頂きたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	また、運営推進会議の席上、地域の方と認知症や介護に関する意見交換をする機会があります。地域づくり会議(3ヶ月に1回)に参加する事で老人会、障害者事業所(児)PTAの方達との交流で認知症の人の理解を深めて頂きよりよい地域づくりに貢献しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、2カ月に1回開催しています。ホームの入退去情報や行事のこと、発生した事故と再発防止策などについて報告している。また、出席者からの率直な質問や意見をもらえる、貴重な機会ともなりサービスの向上に活かしています。	民生委員、区長、地域包括支援センター、入居者、家族代表が参加して、2カ月に1回開催している。会議では入居者の活動状況や入退去報告、職員の研修状況、他県の火災事故に伴う消防の指導内容、感染症対策、悪質商法に関する注意喚起、講習会情報等、有意義な内容となっている。	議事録は読み易く端的に纏められている。会議は他の立場からの意見を聞いたり、本人や家族の意見を表出出来る良い機会なので、積極的に声掛けして、より多くの家族の参加を促して欲しい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営上わからないことがあれば、担当者と連絡を取り、指導を受けながら運営に活かしている。また、地域包括支援センターにも運営推進会議などでホームの運営状況を伝えることで、意見をもらったりして、協力関係を築くよう努めている。	市町村の担当者とは、日頃から指導を受けながら事業所の運営を行っている。又、月1回開催の高齢者虐待防止会、3カ月に1回開催の地域密着型連絡会でも、市高齢介護課職員や、地域包括、社協、デイサービス代表、特養代表等と会議し意見交換を行っている。	会議には管理者が参加し、その議事録はミーティングの際に職員に配布して伝達している。今後も介護保険者である市との連携を図りながらケアサービスに取り組んで頂きたい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	職員の認識不足が身体拘束につながらないよう、内部研修を行い身体拘束廃止に努めている。また、日常的ケアで身体拘束に該当しかねない行為については具体的に注意を促している。	管理者は毎月開催される高齢者虐待防止会に参加して、内容を職員に伝達し共有している。又日常業務の中で4本柵使用等の「禁止の対象となる具体的な行為」についても説明して指導している。	ホームの前が道路という事と、徘徊や、帰宅願望の強い入居者の保護を優先して、玄関は施錠している。入居者の安全を確保しつつも、創意と工夫で出来る限り自由な暮らしの実現が望ましい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に職員を派遣したり、内部での研修を行ったりして、高齢者虐待防止法について学ぶ機会を設けている。		

8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現に成年後見制度を利用しながら入居している人がいる。また、今後制度を必要とする人への情報提供のため、パンフレットを備え付けている。必要な入居者、ご家族などで話し合い、制度を理解して頂くよう支援している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書・重要事項説明書にもとづき説明する時間をとっていただいで十分に説明させていただいています。質問事項では、重度に伴う経済的不安、報酬加算の必要性、料金改正の理由等、納得の行くまで丁寧に説明し御理解頂けるよう努め、話し合っております。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情相談の方法について利用開始時に説明したり、ご意見箱をホーム玄関に設置したりしています。面会の際に意見や要望のあった場合には、管理者に伝えたり、会議で話し合ったりして速やかに対応するようにしています。個人ファイルにご意見表をつけ入居者の意見を記入して頂いています。声が少ないご家族様の声を逃さないようにしています</p>	<p>家族来訪時に、介護記録を渡して閲覧して貰っているが、ファイルには意見や要望を記入できるよう意見表を付けている。又、ホーム便りには集合写真や、個人のスナップ写真と共に「ホームから」と「家族から」の記入欄を設けている。管理者はこの欄を大きく書き易い物にしようと思案中である。</p>	<p>ホーム便りは事業所開設当初の物からは随分進化して、入居者のスナップ写真や、諸行事、食事メニュー紹介等の写真が掲載され、カラフルで美しい。家族から得られた意見は事業所にとって「宝」であるので、職員で話し合い日々の業務に反映させて頂きたい。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>必要に応じて個人面談を行い、職員の意見を聞く機会としている。年に1回は職員面談があり意見や提案を聞けるような環境作りをしています。月例のホーム会議で、職員からの意見・提案を募るほか、日常業務の中から出た意見で、運営に活かせるかと判断したものについては、積極的に取り入れるようにしています。</p>	<p>月例のホーム会議や、日常業務の中から出た改善策等の意見は、その場で即決して活かせるものは取り入れている。年に1回、6月から7月にかけて、管理者が個人面談を行い、勤務表や労働時間について要望を聞いている。</p>	<p>外部評価に伴う自己評価作成の際には、職員皆に空白の自己評価表を渡して記入を依頼し、管理者が集約して完成している。介護保険の求めるサービス内容に対して、職員が自ら日々提供しているそれらを点検することは、非常に有意義なことである。</p>
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>年に1回は職員のストレス発散の場を設けています。各自職員が向上心を持って働けるように希望の出勤日や日数や希望休をとりいれ勤務表を作成しています。職員個々の悩みも相談できる時間を管理者は設けています。また、設備改修や介護補助具の購入等により、職員の負担の軽減に努めています。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所内外の研修を受ける機会を設けている。外部研修への派遣は、職員の個人的希望によるものもあれば、管理者が個々の能力や適性を判断して人選する場合もある。職員が働きながら技術や知識を身につけていき職員全員がスキルアップを図る育成に努めています。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>GH会議(3ヶ月に1回)があり、そこで研修や勉強会や同業者との交流をしている。年に1回は交野市のGHの事業所があつまり入居者と職員が交流しています。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用前には、見学に来てもらったりこちらが出向いたりして、本人の話を直接聴く機会としている。また、希望者には体験入居をしてもらうことで、事前の不安を少しでも和らげてもらうようにしています。</p>			
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族様がホームに来て下さる事によって理念や雰囲気を理解していただき、その時に十分に話し合い説明させて頂いています。</p> <p>利用前には、見学に来てもらったりこちらが出向いたりして、家族等の話を聴いたり、本人の希望や不安を代弁してもらう機会としています。</p>			
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>初期相談の段階で、本人にとってグループホーム入居が本当に相応しいかを本人・家族等とよく話し合うようにしている。その結果、他のサービス利用の検討を勧めることもあります。</p>			
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>じっくりコミュニケーションをとるように努め、料理や家事、昔の生活習慣が話題になる時などには人生の先輩から学ぶ姿勢で接するよう心がけている。また、日常生活で、本人の出来ることまで介護者がしてしまっていないか常に問いかけるようにしている。</p>			
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>本人の、暮らしぶりなどについては、家族等からの情報によるところが大きい。ホーム側からも、月1回のお便りや面会、電話などで本人の様子を伝えたり、判断に迷うことを相談したりして、一緒になって本人と関わってゆけるよう努めています。</p>			
20	8	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入居者の馴染みの人や場所についても希望があれば出かけるように支援しています。</p> <p>麻雀相手に会いにデイサービスに行かれたり、入居前からの知人が、ホームまで会いに来てくれることもあります。</p>	<p>向井田の住吉神社へ初詣に出掛けたり、近所の理髪店、スーパー、花屋、郵便局、そしてコミュニティセンターへの外出支援等を行っている。誕生日には家族から花束が届いたり、食事や外出する人達もいる。</p>	<p>趣味が麻雀の入居者は、ボランティア活動としてデイサービスに出向き、デイの利用者と共に楽しい時間を過ごしている。今後も家族や友人と良い関係が続くような支援に努めて頂きたい。</p>
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>1階・2階の入居者が自由にフロアを行ききする事で、入居者同士の交流を深められる様に玄關掃除やおしながき作り当番をして頂く事で交流を深められるように支援に努めています。会話のきっかけをつくったり、衝突しそうなきときは間に入ったりと、利用者同士のコミュニケーションが円滑になるよう支援しています。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約終了後は連絡を取り合う機会はなかなかないが、なかには本人の退去後の消息について伝えに立ち寄ってくれる家族もいる。亡くなられた後の遺品整理を相談されたり、入院中の洗濯物などを相談されるケースもある。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	<p>○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常会話や暮らしの中から本人の希望を把握している。思いを直接言葉に出して伝えることの困難な入居者の場合には、日頃の言動から推し量ったり、面会の際家族に尋ねるなどして補っています。</p>	<p>散歩途中や、入浴中等日常生活の中での言葉や仕草から、本人の意向や暮らし方の希望を把握し、介護記録の「本人の思い」欄に記入して職員で共有している。</p>	<p>本人の意向を把握する過程において、生活歴や生活環境、習慣等本人のプライバシーに触れることもあるので、職員間での情報の共有や、取り扱いの際にも十分な配慮が必要である。</p>
24	<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>入居時の本人・家族との面談から生活歴の把握に努めている。情報不足の場合は、入居後も情報を徐々に集め、支援につなげています。</p>		
25	<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>一人ひとりの心身の状況や出来る力、わかる力を職員間で話し合いその日の体調に合わせて、暮らしの中から読み取れる情報を少しずつ加えながら、支援するように努めています。</p>		
26	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人がより良く暮らせる様に、入居者は意思表示が難しい為、暮らしぶりから酌み取ったり、面会の際に家族から意見をもらったり、必要ならば電話でやりとりしたりすることで、本人にあったケアプランを作成しています。介護記録ファイルに介護計画とモニタリング表をいれ職員間で情報の共有を図っています。</p>	<p>本人、家族の意向を基に、本人がより良く暮らすための排泄、入浴、趣味等日常生活上の課題(ニーズ)について関係者が意見交換し、最適の介護計画を作成している。3カ月、6カ月を目途とする短期及び長期目標を設定し、達成の度合いを確かめつつ日々のケアを実践している。</p>	<p>開設10周年を迎えて、入居者の平均年齢も87.5歳と超高齢化して、下肢筋力の低下予防と維持が共通の課題となっている。豊かな自然と親しむ毎日の散歩や、アキラ農園、レクリエーション等で楽しみながら生活機能訓練が出来るような支援を期待している。</p>
27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>食事量・血圧・体温・水分量等、個人介護記録を毎日作成し、情報を共有している。各自、勤務前には目を通し情報を共有している。申し送りには専用の様式を用意し、形に残るようにしています。</p>		
28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>入居者・ご家族様の状況に応じて個々にあった、かかりつけ医に通院・往診して頂いている。又、緊急時も付き添い、出来る限り入居者・ご家族様への負担を減らせるよう早期退院の支援など迅速に行っています。近所の理髪店やコミュニティーセンターへの外出支援なども行なっています。</p>		
29	<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>消防署には、防火訓練や救命講習の際に指導を受けています。警察には、入居者が1人で外出してしまったときの捜索(SOSネットワーク)で協力してもらっている。運営推進会議の時に得た情報や散歩で聞いた情報をもとに花見や地域の夏祭り、餅つきなどに参加しています。郵便局には、葉書や切手、お花屋さんには花など本人の御希望の物を買いにいたりしています。</p>		
	<p>○かかりつけ医の受診診断</p>	<p>利用開始時、ホームの協力医療機関による日常的健康管理を受け</p>	<p>協力医療機関の呼びかけにより、</p>	<p>医療機関との関係が良好なので</p>

30	11	<p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>りることも出来ることを説明しています。ご希望があれば、本人のかかりつけや、指定する医療機関に受診することも可能である。二週間に一度の往診のほか、入居者の健康管理上必要があればその都度往診に来てもらっています。</p>	<p>協力医療機関のひびきクリニックとは月2回の往診の他に24時間いつでも画像診断も交えて迅速な医療連携体制ができています。また週に3回鍼灸院からのマッサージの施術を希望者は受けることができます。</p>	<p>医療機関との関係が良好なので今後の重度化においても安心して対応してもらえることと期待している。地域住民との助け合いや医療関係者との関わりを日頃から大事にしているところが素晴らしい。</p>
----	----	---	---	--	---

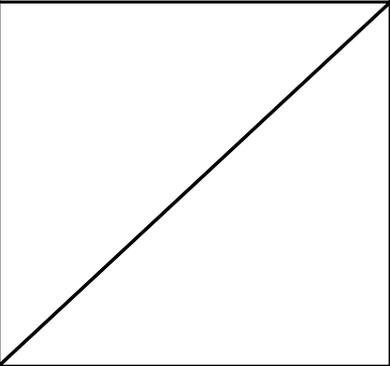
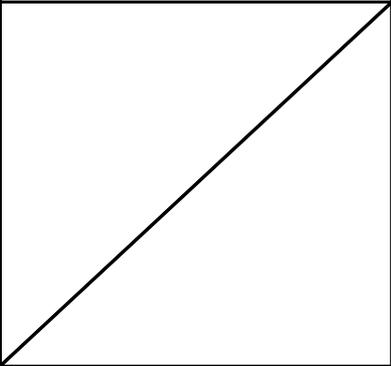
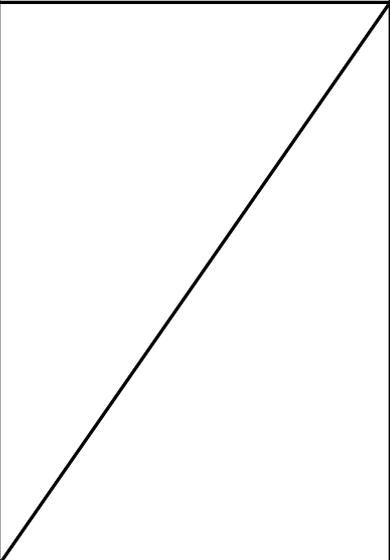
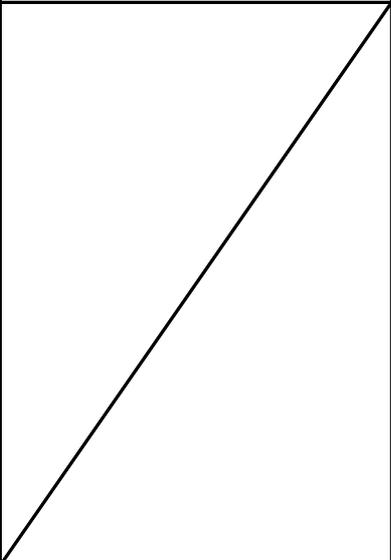
31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>月に2回医療機関に往診に来て頂いています。介護職員は、小さな事でも気づいた事を管理者に報告し、管理者は医師に相談し入居者の健康管理上気にかかることは、24時間体制での電話相談に応じてもらっています。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入居者入院の際には、管理者・ケアマネ等がご家族様と相談の上、早期退院に向けた話し合いや、退院情報交換をしたり、退院後についてのアドバイスを入院時担当看護師や主治医からもらったりして本人への支援体制を整えています。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>利用開始時に「重度化対応・見取りに関する指針」について説明し、同意を得ています。具体的支援については、本人・家族等の希望やホームの受け入れ体制をもとに、協力医療機関のアドバイスを受けながら明確化しています。</p>	<p>「本人による同意または家族等の推定する本人の意思に関する書」により全員の意志を確認している。協力医療機関の指示を受け、これまでに看取りの経験もあり、さらに研修を重ねている。</p>	<p>地域と関わりながら最後まで生き生きと暮らしていけるような支援を受けて、事業所で最後を迎えたい入居者は多い。今後も温かい介護を続けてもらいたい。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>マニュアルを備えています。これまで外部での救命講習を受けたり、内部での研修を行ってきました。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害に備えるマニュアルを作成し避難訓練を年2回のペースで実施しているほか、内部での訓練も行っている。運営推進会議では、地域の防災について話し合ったりしている。ご近所の方には毎年ホームで作成した緊急災害時ご協力シートを配布しています。</p>	<p>今年に入り消防からの立入検査が入り、カーテンを不燃性のものに変えた。「緊急時ご協力お願いシート」緊急避難時の流れ、役割分担表も作成し、スプリンクラー、自動火災報知設備も設置済み。備蓄品も用意している。</p>	<p>様々な事情を想定しての避難訓練をしたり、日頃から地域との関係を深めているので、いざという時の協力は得やすいと思われる。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>相手の目を見て話す、排泄に関することは周囲に聞かれないようにする、など基本的なマナーを守るように気を付けている。プライバシー保護に関する内部研修をおこない、意識向上に努めています。</p>	<p>入居者と共に生活をしている中でその人が大切にしている事やこれまでの暮らしぶりなどを推察し、個性を尊重しながら見守る介護を心がけている。名前の呼び方もそれぞれの好む言い方を心がけている。</p>	<p>重度化していく中でも出来るだけ最後まで手を出さずに入居者が自力でしようとする事を見守り、結果が出てから手直しをすることの大変さと大切さを管理者はよく理解し、職員にも指導している。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>ひとつの場面ごとに、本人の意思を確認するようにしている。職員がすぐに手伝ってしまうのではなく、本人がどうしたいかを見極めながら支援するようにしている。自宅で購読していた新聞を、ホームでも購読してもらったりしている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一日の流れは緩やかながら決まっているが、必ずしもその流れに沿う必要はないと考えています。その時々気分や体調や思いを把握しながら支援している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>夏祭りには浴衣を着るなど、その場面にあった服装をして外出する事もあります。外出時は、着替えたい方は着替えていただき好みに合わせた服装を着ていただいています。毎朝、化粧をしてから出てくる人もいます。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>アキラ菜園で収穫した野菜をとりいれたり、献立に季節のものや利用者の好みを取り入れるようにしています。苦手な物のある人には、別のものを用意するようにしています。下ごしらえや配膳、後片付けなどは、入居者と職員が協力して行っています。職員と入居者は一緒に食事し音楽を聞きながらで会話したり和やかな雰囲気づくりをしています。</p>	<p>入居者と一緒に収穫した野菜やオーナーからの差し入れの野菜などを使い調理担当の職員が調理し職員も共に食卓を囲んでいる。食事に集中出来るようにテレビは消して、和やかな雰囲気の中で美味しくたくさん食べられていた。24時間の水分チェック表に基づき水分管理をし、便秘気味の入居者には薬を使うよりも、食事の工夫や運動を取り入れることで排便に繋がるよう注意をしている。</p>	<p>献立を一緒に考えたり、野菜の皮むきの手伝いをしたり、調理に関わることでより美味しく食べることができている。職員と共に食卓を囲むのも家庭的で楽しい食事時間になっている。</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>食事量と水分量のチェック表をつけています。一人ひとりの状態に合わせて、食事の形態を変え、少しでも食べやすくなるよう配慮しています。年間を通して水分摂取量を記録しています。入居者のひとは食器を白に統一する事で食事の混乱をさけ全量摂取して頂けるように配慮しています。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後職員と一緒に口腔ケアを行っています。訪問歯科による指導も受けながら、ブラッシングや義歯洗浄など、本人の状態に合わせたケアを行っています。</p>		

43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄チェック表を用いて排泄パターンの把握に努め、トイレでの排泄を基本としています。一度は紙パンツを使用していた人でも、能力や必要性について検討し、布パンツの使用に戻ってもらったりしています。</p>	<p>排泄チェック表に自分で記入している入居者もあり、職員は自身の排泄についてできる限り自分で管理したいという気持ちを大切にしている。1～2時間ごとにトイレ誘導することで布パンツ使用に戻れたことは素晴らしい。</p>	<p>排泄介助は誰にとっても一番大きな心配事であり羞恥心も自尊心も関わってくる。これからも温かい介助、支援をお願いしたい。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>チェック表を用いて排便を確認しています。水分摂取に努めたり、体操や散歩、ホームの廊下を職員と歩くなどの運動を心がけたりし、できるだけ自然な排便を促すようにしています。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>ひとり最低週2回は入浴できるようにしています。入浴日としている曜日があるが、本人の気分や体調次第で別の日に入浴してもらうこともあります。入浴が難しい場合には、清拭や足浴による対応もしています。</p>	<p>現在入浴をいやがる入居者はありません。介助については入居者の意向を配慮しながら同性介助にするなど気を配っている。</p>	<p>シャワーチェアは用意してあるが、今後の入居者の重度化や看取り支援の事を考えると機械浴の利用検討を提案したい。介護保険内で他事業所の機械浴を利用できるような方策を交野市の方で検討していただきたい。</p>

46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>就寝・起床の時間は決まっていない。寝る時はテレビを聴きながら眠る人がいたり、基本的には本人の習慣に委ねています。冬場には湯たんぽなどを使って、安眠できる環境を整えるようにしています。天気の良い日にはシーツの洗濯やお布団を干す事やお昼寝1時間でも横になっていただく事で安眠できるように支援しています。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>定期の薬は職員が薬についての用法・用量・目的や副作用を理解するよう各個人ファイルに挟んでいる。新しい薬が処方された時には、作用や副作用を確認し、職員間で情報を共有するようにしています。服薬の経過を主治医に報告し、体調の変化との関係を確認しています。錠剤の服薬が難しい人には散剤に変えるなどの支援もしています。入居者に異変があれば迅速に医療機関に相談しています。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>畑仕事・裁縫・編み物・塗り絵・歌・音楽鑑賞・体操・家事(食器洗い・お盆拭き等)・玄関掃除など個人に応じた役割や趣味をいかにせるようホームで支援しています。デイケアにいかれる方はホーム以外での他者との交流などをして気分転換して頂いています。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>緑に恵まれたのどかな住宅街で気候・天候や、入居者の気分にあわせ、可能な限り近所の散歩にでかけます。地域の夏祭りや運動会など入居者の要望に応じて積極的に参加しています。その他、回覧板を職員と一緒に回したり、地域のスーパーに買い物にも出かけることもあります。</p>	<p>ほとんどの入居者が毎日外へ出ている。道路を隔てたアキラ農園では四季折々野菜を作っていて、収穫したり、様子を見物したりそれぞれで楽しんでいる。近くには桜の名所の妙見坂や、少し離れるが桜、つつじ、菖蒲、もみじの綺麗な山田池公園もある。</p>	<p>春夏秋冬周りは美しい花や自然に溢れている。事業所の前にある駐車場も家庭的な古民家風の空間でたくさんの魅力的な腰掛けがあり、遠くへ行けない時も十分外気浴ができる。近所の散歩や買い物の折にも知り合いと言葉を交わしたり、飼い犬の相手になったりして楽しんでいる。</p>
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>日用品などの買い物の希望のある人についてはその都度職員と一緒に買い物に行ったりしています。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>郵便局に入居者と出かけ、葉書や切手を購入し自分の思いを葉書に書き又、散歩で職員と一緒にポストに投函する。お返事を楽しみにされる入居者の方もいらっしゃいます。本人の申し出によりホームからご友人・ご家族にお電話される方もおられます。</p>		

52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者の健康、精神状態を日々うかがいながら表情が穏やかに保てるようテレビ・ラジオ・CDの音量や内容に気を配りエアコン・加湿器・温度計を設置して居心地良く過ごせるよう職員同士で話し合いながら工夫しています。又、季節感を味わっていただくために入居者とともに歌などを口ずさみながら壁画の配色にも気を付け、行事制作をしたり飾り付けしたりしています。職員の声のトーン又は言葉遣い(優しく、はっきり、ゆっくり等)を語りかけるよう心がけています。個々に合わせ畳が必要な方には畳を置くようにし、心地よく過ごせられるような工夫をしています。玄関先では花を育てており、水遣りを日課にしている入居者もいます。</p>	<p>この事業所には本当にたくさんの椅子が置いてある。玄関前、畑、玄関ホール廊下にもいろいろな椅子があり、ゆったりした空間があちらこちらに出来ている。玄関には大太鼓があり、雨の日などには皆で太鼓を叩いたり音楽に合わせて歌ったり踊ったりもしている。地域の人から譲り受けたものを上手く利用して温かい雰囲気を作り出している。壁には入居者作成の折り紙の美しい作品が飾っており、日中はテレビを観たり廊下でボーリング、輪投げ、カーリング、トランプ、麻雀を楽しむなどいろいろな気分転換ができるようにしている。</p>	<p>玄関先の趣ある佇いも、のどかで気持ちよく日向ぼっこができ、玄関から2階への階段や玄関ホールは自由に行き交う入居者の姿が見えほのぼのとしている。認知症になって動作や気持ちに変化があってもその時々に行えることを上手く引き出し出来るだけその人らしく過ごせるように工夫されている。トイレの出入口の段差は介護度の軽度の利用者にはリハビリにもなるが重度化した時には気になる点ではあるが全体的にとっても温かい雰囲気の家庭的な空間である。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングと廊下にソファを置いている。また、玄関先にはベンチが置いてある。ひとりでゆっくりしたいときなどに自由に使ってもらうことができます。また、家族や知人の面会の際に使ったりもしています。自由に1階・2階を行き来でき、リビングや自室廊下のソファなどで入居者の方、思い思いに気のあった入居者同士で過ごされています。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用開始時には、できるだけ使い慣れたものを持ってきてもらうよう伝えていきます。本人や家族の写真や飾りをつけて、居室が馴染みやすい空間となるよう心がけています。居室の床は希望次第でフローリングから畳に変えることも可能である。家庭とホームの違和感がないように配慮しています。</p>	<p>居室には好きな家具が置かれ、家庭的な雰囲気になっている。掃除は入居者と職員で行い、シーツは職員が1週間に一度洗濯している。希望者は畳を敷いて布団を使う事も可能である。</p>	<p>自分の好きな物を持ち込み家族の意向もあり个性的で温かい雰囲気の居室が多い。昼間は共用空間で過ごす入居者がほとんどである。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>今まで過ごされてきた生活歴等を把握し何が出来るか又何に興味があるかを観察し出来ることなくとも職員が共に行い、掃除・洗濯・整理整頓・シーツがけや外し、洗濯干し又名前をみながら衣類を分類する。入浴準備、食事の片づけ、買い物、調理の準備、季節の壁画装飾づくり飾り付け、その方のできる事興味のある事に参加して頂いています。やりたいという気持ちを大切に支援しています。職員会議では、職員からの提案も募って、ホーム内が快適な空間となるよう検討を加えています。</p>		

V アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられれている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない